南極ものがたり No.36

◆ 野外オペ「テーレン」自然編

まだ続きます、テーレン。今回は自然編。テーレンに観測隊が入るのは久しぶりです。57 次隊でも行ったことのある人はいません。ラングホブデ、スカルブスネス、スカーレンなどの露岩地域は、モニタリング観測等の調査も行われているため毎年のように観測隊が入りますが、テーレンは対象外です。私も情報がないまま、野外オペの日程調整の関係上テーレンを希望したのですが、これが大当たり。もちろん、南極では何処へ行っても感動する光景ばかりなのですが、テーレンは周囲 3～4km ほどの小さな露岩地域で標高も 100m 程度、しかも 360°氷河で囲まれているという穴場中の穴場なのでした。

逆さテーレン氷河

眼前に迫るテーレン氷河とスカーレン氷河。氷河から流れ落ちる雄大な滝。氷河に削り取られた滑らかな岩肌と悠久の時が刻まれる地層。瓦礫の山、モレーン。透き通る氷河湖。静けさの中の氷河の崩落音。白夜の夕日に照らされる氷河。どれもこれも深く心に刻まれた風景となりました。

氷河を刻む融氷水

美しい自然の話の後で失礼。No.30 号のトリビアの答えは、③ 海氷上なら OK でした。右下の場所が、文字通り私たちの「雪隠」でした。

氷河から流れ落ちる滝

いにしえの時が描いた流麗な地層

氷河とモレーン

まるで敷石。氷河底。

氷河擦痕（上下方向の薄い白い線）

この風景を見ながら、毎日･･･。

◆ JARE57 隊員紹介

竹内 由香里（48） 夏隊 一般研究観測

森林総合研究所 気象環境研究領域

福岡県の私立高校卒業後、北海道大学理学部地球物理学科に進む。雪氷学が専門。大学院でも研究を深化させ、博士号を取得。現在は、新潟県で主に雪崩の研究に取り組む。高校生のときに将来は南極で仕事がしたいと考えた。常に南極へ近づくように考えながら歩んできた。最近、観測隊員だった人と偶然仕事で出会い、今回の派遣へとつながった。皆さんへは**「あきらめずに続けていれば、思いがけず夢が叶うことがあるというのは本当でした」**とアドバイス。南極では、海面の動きや氷山の動きなどで生じるインフラサウンドの観測を担当した。360 度地平線まで雪原が続く氷床上に立った時は、言葉にならない感動。

また来たいと思いました。

インフラサウンドの保守

2016.2.27.